

▶ 第8章

金正恩時代の軍需産業と軍隊 ——兵器開発と災害への対応

聖学院大学 教授

宮本 悟

【ポイント】

- ▶ 北朝鮮では金正恩（キム・ジョンウン）時代に入ると、核兵器とミサイルの開発が加速化された。米朝対話の進展で一時は核実験や中長距離・大陸間弾道ミサイル実験が中止されたが、対話が決裂すると実験が再開されることになり、現在でも開発が続いている。その間、国家予算における国防費の比率はほとんど変化しなかった。
- ▶ 国防費の比率が変化しないのは、兵器開発と軍需産業が国家による国防費だけでなく、党から供給される「革命資金」と軍需工場が自ら稼ぐ資金によって支えられているからである。北朝鮮の軍需産業は、主に朝鮮労働党によって管理されている。
- ▶ 北朝鮮では、経済建設に軍隊が従事することが多いが、短期間で大規模に経済建設に動員されるのは災害派遣である。新型コロナウイルス対策によって国外からの支援を受けない方針の下、2020年と21年に発生した水害でも軍隊が被害復旧事業に動員された。被害復旧事業における軍隊の役割には道路、橋、河川堤防の復旧もあるが、最も評価されているのは住宅建設であった。



注目データ

北朝鮮の国家予算における国防費の比率の推移

